

# 国際価格

# 廃バッテリー反発

## 韓国高値買いがけん引

鉛リサイクル原料の廃バッテリー（使用済み自動車用鉛蓄電池）の国際価格が反発してきた。その指標とされる最大輸入国の韓国の11月輸入平均単価は前月比キロ0・03%高の1・01ドルに上昇し、1年1カ月ぶりの水準に戻した。韓国は今年、日本からの輸入ストップ後も調達拡大を続け、高値買いを強化している。日本国内の海外との価格差は広がり、今後の中間原料の粗鉛（プリオン）輸出にも影響が出る可能性があるという。

廃バッテリー価格は高のキロ1・18ドルまで上昇。その後は相場下落と、米国や中国のバッテリー需要一服による需給緩和によって、今年7月は0・92ドルまで下げていた。しかし、6月の豪製は110円相当に達し

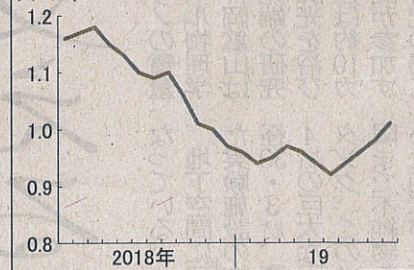
た。韓国の輸入廃バッテリーの多くは液抜きで鉛単重が大きいときれるが、日本国内の液入りの市単価40〜45円前後と比べても、価格差は拡大してきた。韓国の2019年の

輸出許可条件を厳格化したため輸入が事実上できなくなっていたが、米国からの輸入量が急増。さらに中東のアラブ首長国連邦(UAE)やオセアニア(豪州、ニュージーランド)からの輸入も増加。中東・アフリカではインドとの集荷競争を繰り広げ、一時は買い負けて調達を減らしていたが、夏場以降は高値を提示し

た。韓国の輸入廃バッテリーの多くは液抜きで鉛単重が大きいときれるが、日本国内の液入りの市単価40〜45円前後と比べても、価格差は拡大してきた。韓国の2019年の

輸出許可条件を厳格化したため輸入が事実上できなくなっていたが、米国からの輸入量が急増。さらに中東のアラブ首長国連邦(UAE)やオセアニア(豪州、ニュージーランド)からの輸入も増加。中東・アフリカではインドとの集荷競争を繰り広げ、一時は買い負けて調達を減らしていたが、夏場以降は高値を提示し

韓国の廃バッテリー輸入単価  
ドル/キロ (韓国貿易統計より作成)



て回復している。豪州の長引く供給障害によって、自動車バッテリー生産が盛んな東南アジアでは、原料の鉛地金が不足して

輸出許可条件を厳格化したため輸入が事実上できなくなっていたが、米国からの輸入量が急増。さらに中東のアラブ首長国連邦(UAE)やオセアニア(豪州、ニュージーランド)からの輸入も増加。中東・アフリカではインドとの集荷競争を繰り広げ、一時は買い負けて調達を減らしていたが、夏場以降は高値を提示し

懸念する声もあり、韓国の買い姿勢が注視されそうだ。

国際的にも割安な廃バッテリーを使用した日本産の粗鉛は、輸出市場でも競争力も備えており、海外でも魅力ある原料で、実際引き合いも来ている(市場関係者)。しかし一方では粗鉛の輸出加速によって、鉛資源の国内空洞化が再来することを